



「食」を通じた難民支援を目指して

Meal for Refugees (M4R) 代表 テュアン シャンカイ

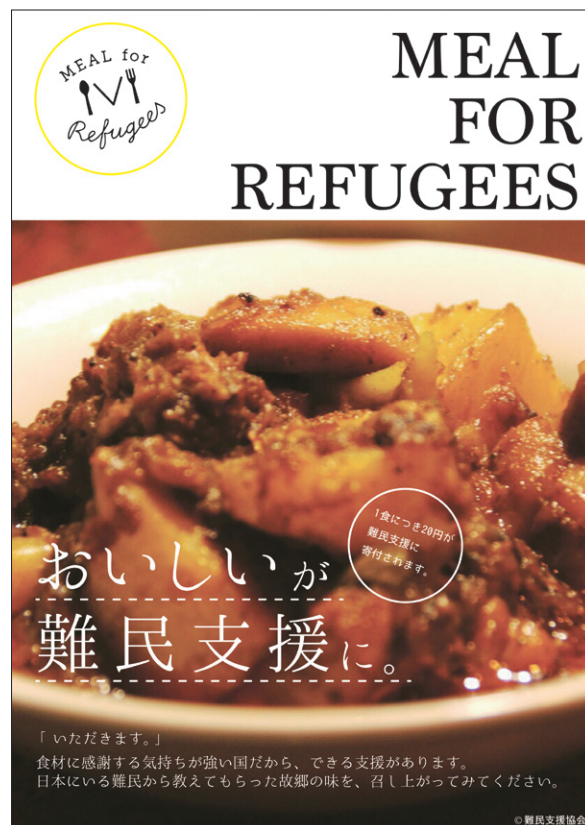
M4R とは？

1 Meal for Refugees (以下、M4R) は、2013 年 2 月に立ち上がった学生による学生に向けた難民支援と社会貢献を目指す団体です。認定 NPO 法人難民支援協会が、日本で暮らす難民の方々から教えて頂いたレシピを集めて出版した「海を渡った故郷の味 -flavors without borders-」を基に、大学の食堂に日本で暮らす難民の故郷の味を提供しています。この団体が立ち上がった理由は、3 つあります。まず 1 つ目が、日本に多くの難民が居ること、そして難民の日本での生活が厳しいという状況がなかなか知られていないという課題があります。2 つ目は、難民という言葉自体が非常に多様化されており、ネットカフェ難民や就職難民などといった造語が世の中に出回り、本来の難民の意味を持たずにいわばカジュアルに難民という言葉を使っているという状況があります。そして 3 つ目は、難民という言葉に対する偏見があるということです。難民というだけで、どこかマイナスなイメージを持たれてしまっているという問題があります。このような認識の不足や誤りが、日本社会が難民を受け入れる際の妨げになっているのではないかと考えます。このことから、難民がより良い生活を送り、活躍できる環境を作る第一歩として、「食」という切り口で難民について正しい理解を持っていただくことを目指して、M4R が立ち上がりました。

活動の特色

私たちの活動を一言で表すならば、「難民を知って支える」です。難民の故郷の味を召し上がっていただくことで、難民に関する情報を知っていただき、1 食 20 円の寄付金を通じて、日本に居る難民の方々を支えてもらうという仕組みを基に、さまざまな大学に展開しています。最初は試験的に導入するということで、2013 年の 6 月 20 日の「世界難民の日」前後の週で関東と関西

ら 5 大学で導入を始めました。当初は、のべ 1000 食程度が売ればいいだろうと思っていましたが、フタを開けてみれば、どの大学でも好評を博し、のべ 5000 食を提供することが出来ました。この実績を踏まえて、本格的に活動を展開し、現在までに、北は北海道から西は福岡まで、のべ 20 大学で導入されました。初年の導入から、広報に関しては特に力を入れて取り組み、大学の広報を使った宣伝や、M4R 独自の SNS サイトを開設し、実際に導入する料理の写真を交えた発信などを行い、徹底的にプロモーション戦略を策定、実践して行きました。その結果、テレビのニュース番組で紹介されたのを筆頭に、新聞では夕刊 1 面に掲載させていただき、M4R 自体の認知度を上げることに成功しました。



M4R 人気メニューのひとつ

「鶏肉とジャガイモのスパイス煮込み (ミャンマー)」

学食から地域へ

私たちは、主に大学の食堂を活動の拠点にしていますが、現在では、大学を越えてさまざまな場所で導入されています。まず自治体などが主催しているお祭りに参加し、M4R メニューを導入させて頂きました。メニューに香辛料などを使用しているため、香ばしい匂いにつられて食べてみたという方も多くいらっしゃいました。また、レストランでの導入も行っています。現在では、神戸にある多国籍料理屋において M4R メニューを常設して頂いている他、M4R のレトルト食品を製作していただいています。そして昨年度は、キッチンカーを使った M4R 弁当を提供することが出来ました。これらは、先方からのお声かけによってコラボレーションという型で実現されたものもありますが、M4R に加わっている学生の発案によって実現されたものもあり、ただ単に自分の大学で導入をすることだけで満足せずに、更なる認知啓発を目指し、自ら行動を起こしてくれています。このように、初年度から地道に実績を残していくことで、少しずつですが、新たな導入形態を実現してきました。



文化祭での導入も行っており
学生主体の活動を推進しています。

今後の課題

M4R の立ち上げから現在（2016 年 1 月）までに、のべ 27,000 食を売り上げていますが、果たして 27,000 食を召し上がった方全員が、難民問題に興味・関心を持ってくださったかどうかは分かりません。これまで導入された大学で行ったアンケートからも、価格が安いから選んでみた、エスニック料理が好きだから選んでみたという声が半数を占めているのも事実です。しかしながら、私たちはこうしたきっかけを何回も続けていくことによって、難民問題の興味・関心へと繋がるのではないかと考えます。「食」という分かりやすい切り口ですが、いかにして私たちが本当に伝えたい難民のことが、召し上がっていただいた全ての方へ伝えられるかが今後の課題です。

Meal から Multi へ

2013 年の立ち上げ時には、学生を対象とした活動を目指して取り組んできました。これは、難民と共にこれから生きていく学生に、特に関心を持って欲しいという考えがあったからです。しかしながら、今ではシリア情勢をはじめ、難民受け入れに関する国際情勢などから、学生に限らず幅広い世代が難民問題に関して興味・関心を持っているだろうといえます。この状況を鑑みて、今後は学食での導入を継続する一方で、新たな分野での開拓としてカフェや企業の社員食堂などでも導入出来るように、新しい仕組みを追求していきたいと考えています。中でも、M4R の M を Meal から Multi に置き換えることによって、「食」だけに限らず、さまざまな観点・切り口から難民のための認知啓発や支援活動を行っていきたいと考えています。また、現在日本各地で活動をしている難民支援 NGO・NPO や学生団体などとも連携を強化し、M4R を中心とした各団体とのネットワークの構築にも取り組んでまいります。学生の発案で立ち上がったこの団体ですが、今後は誰もが M4R を通じて難民問題を知って頂ける環境を提供できるように、今後もさらなる成長を目指し幅広く活動を展開してまいります。